

千葉県北西部に広がる千葉ニュータウン。高度経済成長期の人口増を受け、1966年から千葉県企業庁が開発事業をスタート、1978年から宅地開発公団（現UR都市機構）が参画して開発された。千葉県印西市と白井市、船橋市にまたがり、東京都心と成田国際空港への交通アクセスにも恵まれた巨大ベッドタウンだ。

千葉ニュータウンの核ともいえる15のUR賃貸住宅のうち、8団地を擁するのが印西市だ。各団地は、北総鉄道北総線の千葉ニュータウン中央駅と印西牧の原駅を最寄り駅に、一大エリアをなしている。

10月26日の土曜日、そのうちの高花団地と原山団地で「みんなのまなびば」と名づけられたイベントが開かれた。高花団地では市民ボランティアによる駄菓子屋さんや素焼き鉢ペイントの出店もあり、親子連れなどでにぎわった。

UR賃貸住宅を活用した生涯学習の推進に関する連携協定締結 みんなのまなびば

千葉ニュータウン
高花団地・原山団地
2024年●令和6年～



理するURと印西市が共同で開催したものだ。印西市とURは、10月2日に「UR賃貸住宅を活用した生涯学習の推進に関する連携協定」を締結。今回は、協定のキックオフイベントとの位置づけだという。

協定締結の目的と意義を、印西市教育委員会教育部生涯学習課の飯島正義課長に聞いた。

「千葉ニュータウンの管理開始から約40年。まちが成熟した今、さらなる活性化を促したい時期を迎えました。そこで注目したのが、まちに暮らす『人』です。この協定を機に、印西市の生涯学習や市民ネットワークと、URさんがさまざまな団地で行ってきた取り組みのノウハウを活用。UR賃貸住宅を拠点とした印西市の生涯学習の充実・発展に向けて、人づくり、つながりづくり、地域づくりの好循環につながればと考えました」

印西市は、経済誌の「住みよさランキング」で、2012年から7年連続日本一を獲得。都市と自然のバランスがとれたまちとして、近年は子育て世代が増加している。また、

しい」と声を弾ませる。

○まちを活性化し人をつなぐ

一方URが担うのは、TAKABANA BASEを舞台にした「つくる喜び、手触りのある暮らし」の提案だ。

「TAKABANA BASE」と冠された芝生広場で、ガーデンづくりやコンポスト講座を開催。URの赤堀圭佑は「軸となるのが『循環型コミュニティガーデン』です。BASE内のガーデンで野菜やハーブを栽培。同時に家庭で出た生ごみを堆肥にするバグ型コンポストを希望者に配布。できた堆肥を菜園に施し、育った野菜をみんなで味わい、そのごみを堆肥に…というサステナブルな試みです。大人から子どもまで、また団地居住者にかかわらず、希望者は誰でも参加できます」と説明する。

コンポストを使った生ごみ循環講座を開いていたローカルフードサイクリングの土屋奈央さんは「専用のバグ型コンポストを使うので、匂いも気にならず、ベランダで簡単に堆肥ができます。TAKABANA BASEの活動自体は3月から始めたの

で、今日は夏からトライアルしている方が見えて『すごくいい試みで、地域の未来の子にもつなげたい』と言ってくださり、うれしかったですね」と話す。

ガーデンづくりを教えていたのは、ガーデンプロデューサーの塚原理香さんだ。

「団地にお住まいの方や、普段植物に触れられない方も、ここに来れば土に触ることができる。とても貴重な空間で、意義のあるプロジェクトだと思います。ガーデンをつくりながら、少しずつ知識をレクチャーし、いずれは皆さんで自由に楽しんでいただくお手伝いができればうれしいですね」

「今後もイベントを開催予定で、印西市さんと協力しながら、まちの活性化やコミュニティづくり尽力していきたい」と赤堀。両者の協働から、美しい花が咲き、豊かな実が実るのが楽しみだ。

交通アクセスのよさと地盤の強固さから、米グーグル社を始めとする大企業のデータセンターや物流センターが続々進出するなど、世界からも注目を集めている。

「現在の印西市の発展があるのは、ニュータウン事業のおかげだと思っています。2014年でニュータウン事業は完了しましたが、事業を担われたURさんと今回また一緒にまちづくりのお仕事をできてうれしいですね。

この協定締結により、市としてはUR賃貸住宅の場を提供していただき、市民の遊び場や居場所をつくることができる。そこに地域の方々や市民活動をされている方々の活躍の場を設けられるのも、ありがたい」と飯島課長。

イベントに参加する市民団体などの活動を支援する印西市市民活動支援センターの小林康子センター長は「今まで活動の場がなかった団体さんに活動の場を設けていただいて、やっと実るときがきた」と、本当にうれ



印西市主催の防災イベントが集会所で開かれ、同時にTAKABANA BASEではプランティングが行われた。

——— 街に、ルネッサンス ———



UR都市機構

【企画制作】新潮社